

愛媛大学・愛媛県中小企業家同友会景況調査（EDOR）報告

第 22 回（2008 年 7-9 月期）

2008 年 10 月 24 日

愛媛大学総合地域政策研究会・愛媛県中小企業家同友会共同実施
問合先：曾我亘由（愛媛大学総合地域政策研究会）tel.089-927-9238
池田尚子（愛媛県中小企業家同友会） tel.089-968-8802
文 章：川口和仁（愛媛大学法文学部准教授 数理経済学）

県内中小企業の景況、悪化の動き止まらず

【調査要領】

- | | |
|----------|-------------------------------------|
| (1)調査期間 | 2008 年 9 月 9 日～9 月 23 日 |
| (2)対象企業 | 愛媛県中小企業家同友会会員企業 |
| (3)調査方法 | 郵送による自計記入 |
| (4)回答企業数 | 調査対象企業数 417 社、回答企業 159 社（回答率 38.1%） |

[経済概況]

2008 年 6 月頃から下落傾向が鮮明になった米国株式市場は、幾度かの暴落を繰り返し、いまだ不安定な状況にある。「100 年に一度の経済危機」という言葉も聞かれる中、内閣府発表の 8 月景気動向指数は、過去最大の下げ幅を記録し、基調判断は 3 か月連続の「悪化」となった。8 月分鉱工業生産指数を見ると、輸送機械工業、一般機械工業、電気機械工業などの業種で生産水準が低下しており、輸出関連産業を中心に米国における景気後退の影響が色濃く出ている。また、昨年末に 1 を割り込んだ有効求人倍率は、その後も低下を続け、7 月には 0.89 にまで落ち込んだ。株式市場を見ると、東証株価指数(TOPIX)は、米国市場の後を追う形で 7 月末頃からじりじりと下降してきたが、9 月に入ると米国発の金融危機に翻弄され、暴落を繰り返した。

日銀の 9 月短観によると、中小企業の業況判断指数は 10 期連続で悪化しており、6 月に比べ、繊維、精密機械、非鉄金属、食料品といった業種における判断が目立って悪化している。また、金融面では、資金繰り判断が 6 月よりも悪化し、金融機関の貸出判断について、9 月短観では「厳しい」と答えた企業数が「緩い」と答えた企業数を上回った。9 月 15 日に発覚したリーマンブラザーズの経営破綻以降の金融危機については、日銀短観も含め、まだ十分に情報が織り込まれた段階での景況調査は行われておらず、今後、企業家、消費者に不安心理が拡大していくことが懸念される。

実体経済の悪化に続いて株価が暴落するという最近の市況の流れは、好況期に起った 1987 年 10 月のブラックマンデー暴落などと異なり、1929 年 10 月におけるニューヨーク株式市場の大暴落と同じパターンである。1929 年と状況が異なっているのは、世界恐慌時に実現できなかった国際協調が、今回は曲がりなりにも進められつつある点である。各国

政府の迅速な動きを見れば、金融システムの持つ公共性が、世界恐慌という厳しい経験により、広く認知されるようになったことがよく解る。

しかし、金融機関の連鎖破綻が仮にくい止められたとしても、そのことが景気を即好況に転換するわけではない。金融システムの安定が維持されれば、不況の程度、長さは間違いなく改善されるが、停滞している実体経済への対策は、米国にせよ、日本にせよ、いまだ手付かずのままだからである。実体経済について明るい材料を探すとすれば、9月以降のガソリン価格の急落があるが、その一方で家畜飼料などは相変わらず高値を続けており、企業の採算がどの程度改善されるかは未知数である。

[EDOR 調査結果概要]

(売上高、採算、採算水準、業況)

売上高、採算、自社業況判断の全業種 DI 前期比は、4-6 月期の調査に比べて悪化した。また、採算 DI(当期)は 3 期連続で低下し、過去 2 番目の悪さとなっている。前期比 DI の変動には季節要因が含まれるため、その解釈には注意を要するが、業界業況判断を見ると、2006 年末の調査から一貫して低下を続けており、歯止めがかからなくなっている。経営上の問題点として、取引先の減少、民間需要の停滞を挙げる企業も増加しており、個別の企業努力も大切であるが、もはやそれを越えた業界全体として、あるいは全県的な顧客拡大の方策が求められる状況になってきたと言える。

一方、売上高、採算、自社業況判断の全業種 DI 前年同期比は、4-6 月期の調査に比べて改善した。特に売上高全業種 DI の前年同期比は、前回調査のマイナスからプラスに転じ、大きく改善した。原因としては、大幅なマイナスを続けていた県内公共工事の前年同期比が、7 月より一転してプラスとなったこと、不振が続いていた新設住宅着工戸数が、7 月は前年同期比 37.4% 増(全国は 19% 増)、8 月は同 24.9% 増(全国は 53.6% 増)と大きく持ち直したことが挙げられる(国土交通省、『建設着工統計調査報告』)。実際、昨年 7-9 月期は、建築基準法改正の影響で、逆に新設住宅着工戸数が前年同期比-29.4% と急減し、DI は軒並み大幅に低下、中でも自社業況判断 DI の前年同期比が、本調査において過去最大の落ち込みを示した時期に当たっていた。県内では、住宅建設の関連業者も多く、波及効果も大きいため、建築需要の動向が DI に多大な影響を与えていると見られる。このように今回調査における前年同期比の動きを解釈する際には、あくまでそれが政策によるバイアスが存在した昨年同期との比較である点に留意し、慎重に評価する必要がある。

最後に、次期見通しについてである。売上高 DI(前年同期比)はほぼ横ばいであるが、採算 DI(前年同期比)、自社業況判断 DI(前年同期比)は低下し、業界業況判断 DI(前年同期比)は若干持ち直している。全体として、県内の中小企業に景気の先行きを楽観する空気は見られない。なお、調査期間から見て、9 月末以降のガソリン価格急落や米国発の金融不安の影響は今回の見通し形成には織り込まれていない。

(経営上の問題、力点)

経営上の問題点としては、仕入れ単価の上昇(回答数、69)、同業者相互の価格競争の激化(回答数、54)、民間需要の停滞(回答数、53)を挙げる企業が多かった。前回調査に比べると、仕入れ単価の上昇、仕入れ先からの値上げ要請を挙げる企業は共に若干であるが減少しており、8月にガソリン価格の上昇が頭打ちとなったことが結果に反映したと見られる。一方で、民間需要の停滞と答える企業は、前回から引き続き増加しており、取引先の減少と答えた企業も増えている。不況が本格化する中で、価格面から数量面へと経営問題が広がってきた可能性もある。9月半ばより世界的な金融危機が進行しているが、今回の調査では、事業資金の借入難を問題視する企業はほとんどなかった。

経営上の力点では、新規受注の確保(回答数、96)、付加価値の増大(回答数、61)、社員教育(回答数、53)がこれまで同様上位となっている。中でも新規受注の確保は、2期連続で大きく伸びており、問題点で需要の停滞が増加したことに対応する結果と言える。また、人件費以外の経費節減や財務体質の強化を挙げる企業も若干ではあるが増加している。

(特別調査 燃料・原材料・仕入れ価格の上昇における自社の対応)

今回は、特別調査として「燃料・原材料・仕入れ価格の上昇における自社の対応」について調査を行った。その結果、価格上昇のために予定利益が減少したとする企業が68%と大多数に上り、利益増加または影響なしと答えた企業は22%にすぎなかった。国・行政への要望としては、灯油・ガソリン等の税率低減(回答数、75)、国際的投機を防止する対策(回答数、46)、中小企業への緊急融資の実施(回答数、38)の順に回答数が多く、コストの引き下げに直接つながる即効性のある政策が強く望まれているようである。

また、今回の調査では、燃料・原材料・仕入れ単価の上昇や価格転嫁の度合いと業況判断との関係を調べるため、簡単なクロス集計表を作成した。その結果、まず価格転嫁については、価格転嫁が十分または一部できた企業の方が、できなかった企業よりも全般的にDI値がよいというもっともらしい結論が得られた。これに対し、原材料・仕入単価については、単価の上昇程度が平均より高い企業の方が、低い企業よりも全般にDI値が良好であるという一見逆説的な結果が得られた。この結果の解釈については、一般論が成立する保証はなく、業種ごとの詳細な分析が必要である。現在のところ仮説としては、以下のようなことが考えられる。第一に、コストが急激に上昇している寡占企業において需要の価格弾力性がたまたま小さかった場合、価格転嫁によって容易に売上、利益を増やすことができた可能性がある。第2に、競争が激しく、業況も悪化している企業が、原材料・仕入れ単価の上昇を抑えるために、仕入れ先の変更、仕入れ価格値上げへの抵抗など、ギリギリの状況でコスト削減の工夫、努力を重ねたことが結果に現われた可能性も考えられる。

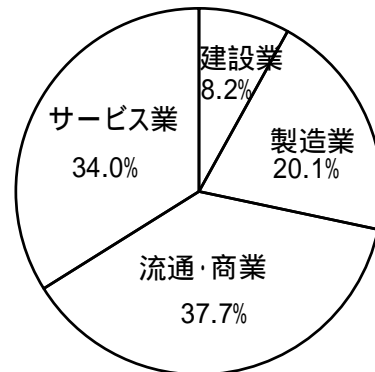
第22回(2008年7-9月期) EDOR 調査結果

回答企業の基本情報

業種(4業種分類)

	社	%
建設業	13	8.2
製造業	32	20.1
流通・商業	60	37.7
サービス業	54	34.0
合計	159	100.0

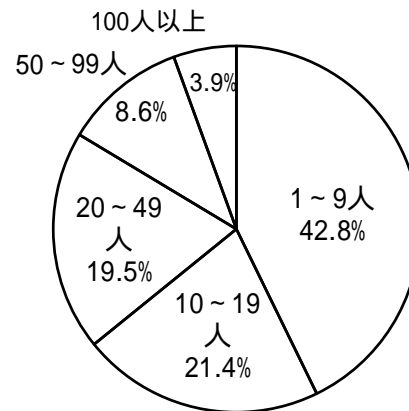
業種



常勤役員を含む正規従業員数

	社	%
1~9人	68	42.8
10~19人	34	21.4
20~49人	31	19.5
50~99人	17	10.7
100人以上	9	5.7
合計	159	100.0

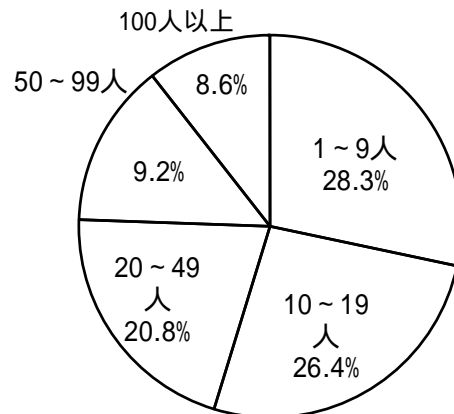
正規従業員数



臨時・パート・アルバイトを含む総従業員数

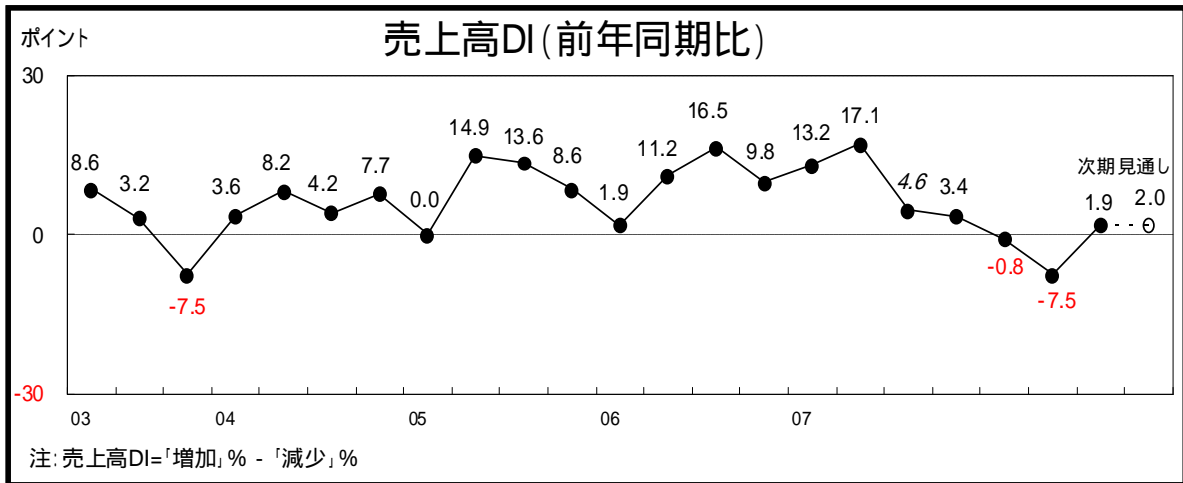
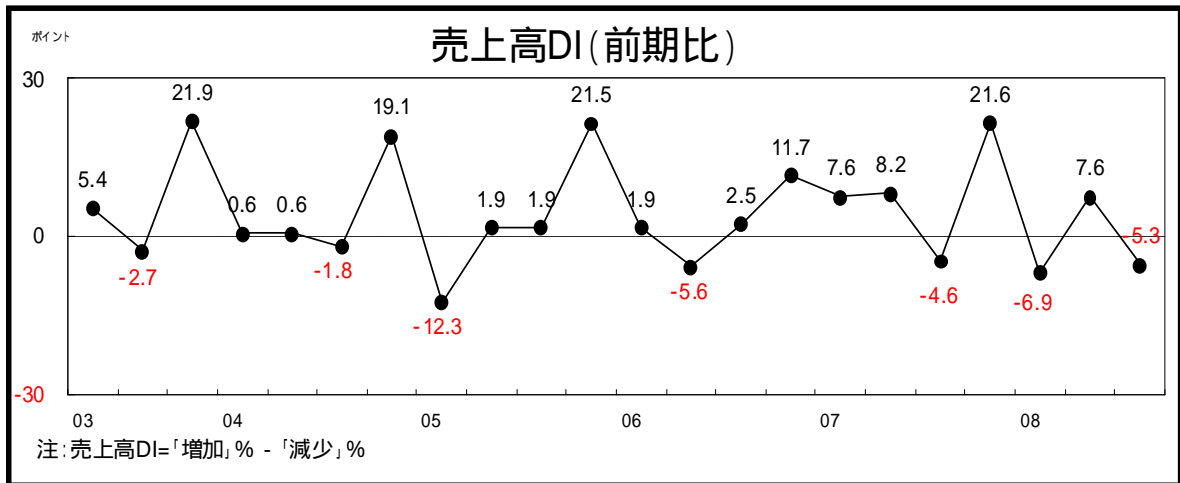
	社	%
1~9人	45	28.3
10~19人	42	26.4
20~49人	33	20.8
50~99人	22	13.8
100人以上	17	10.7
合計	159	100.0

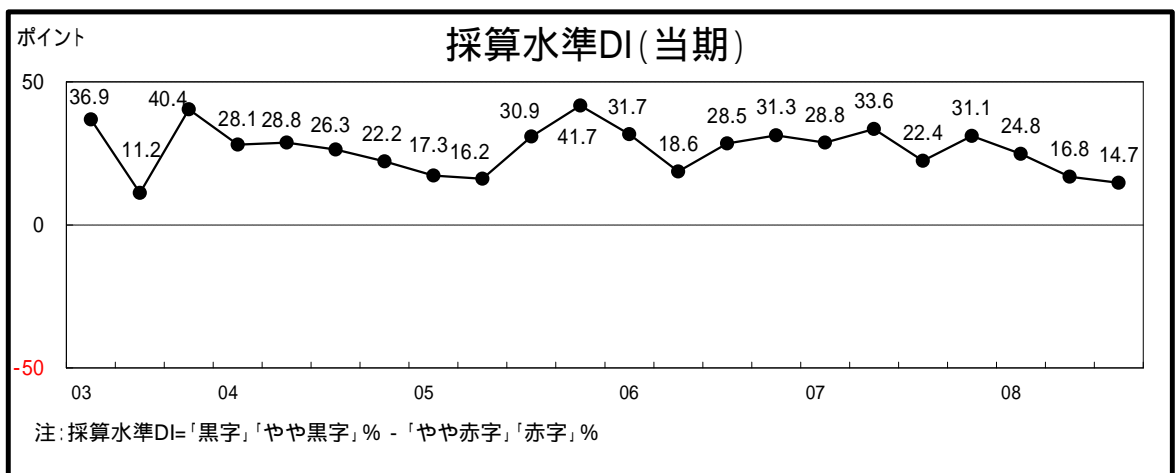
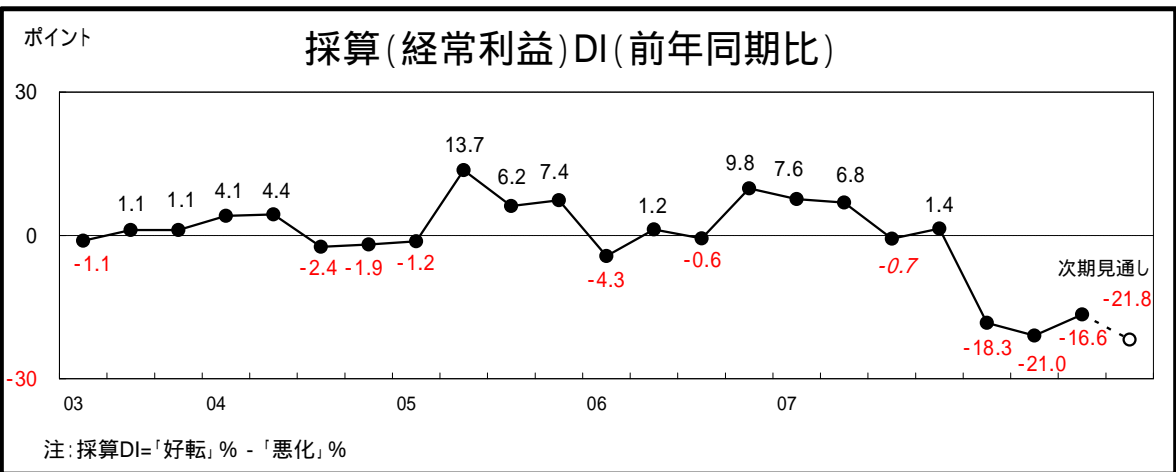
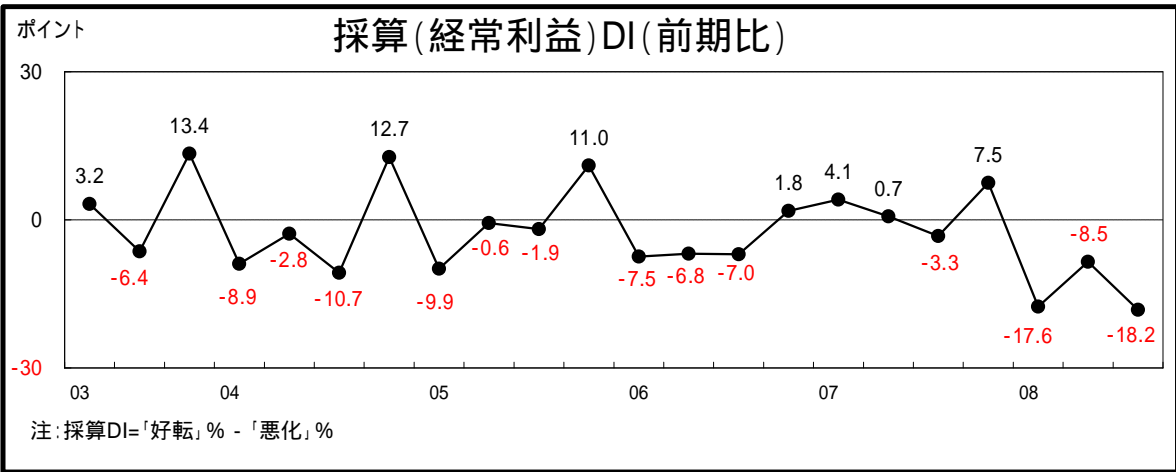
総従業員数

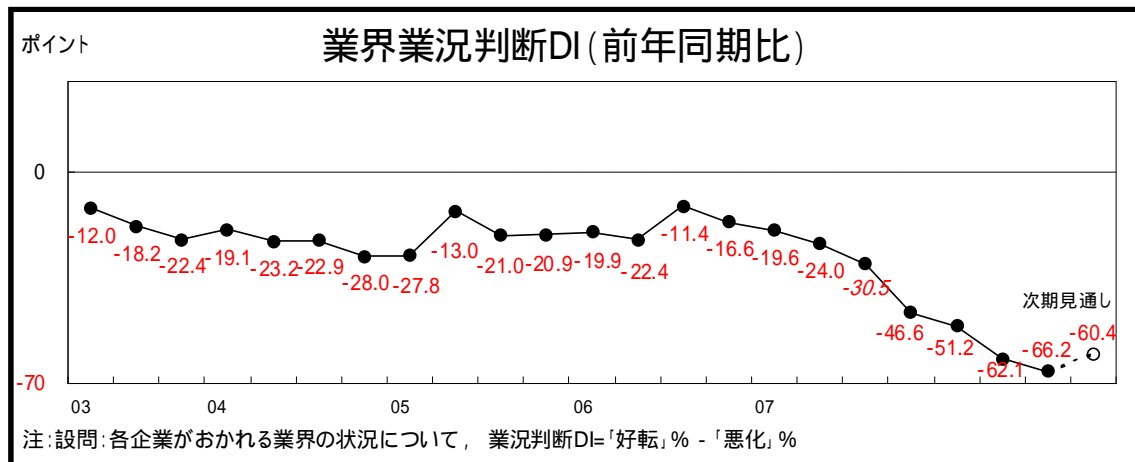
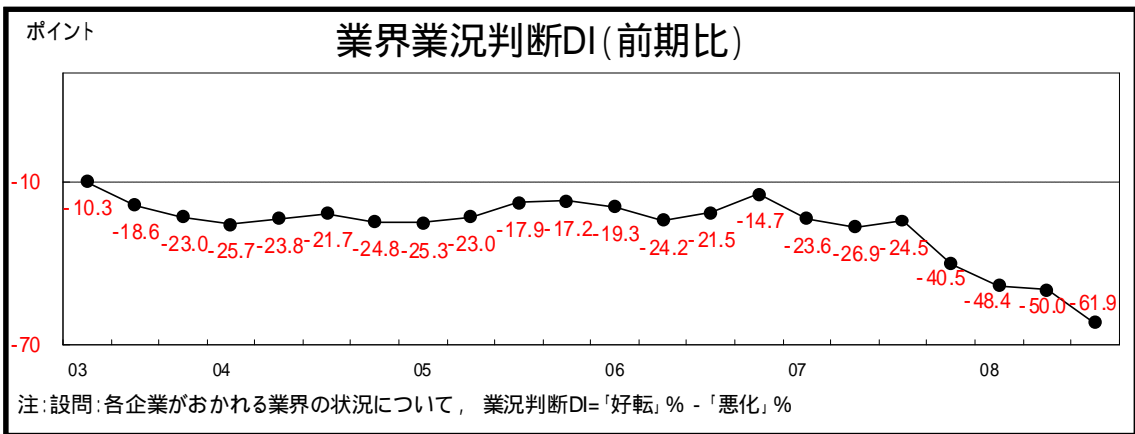
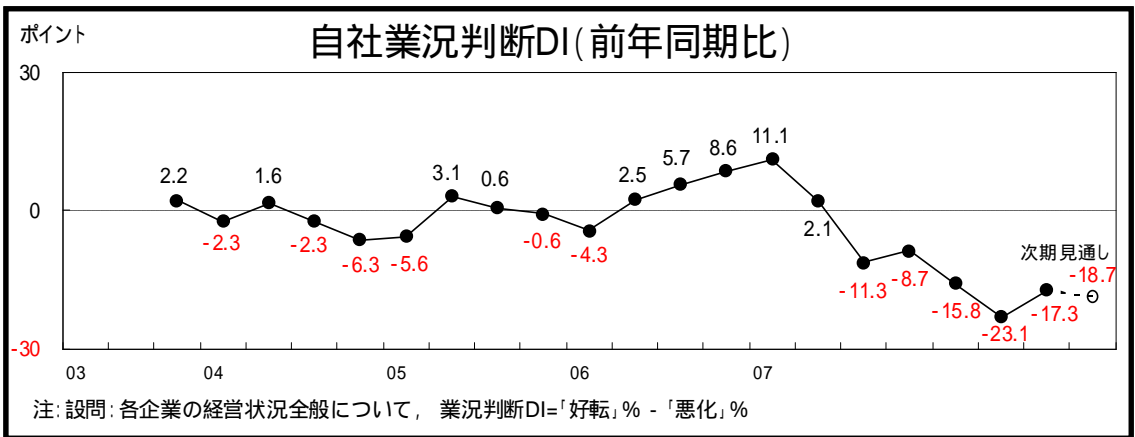
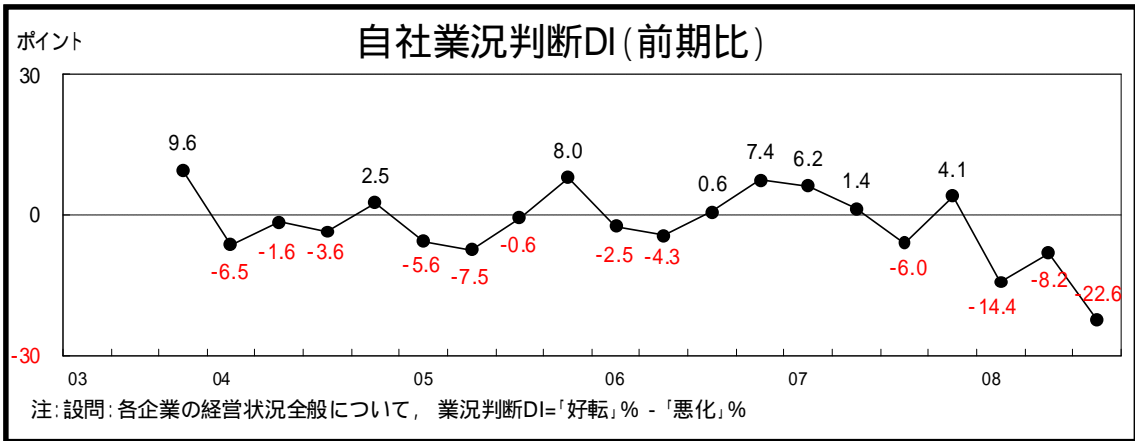


従業員数の平均と中央値

	人
常勤役員を含む正規従業員数	
平均	31.3
中央値	11
臨時・パート・アルバイトを含む総従業員数	
平均	49.6
中央値	15

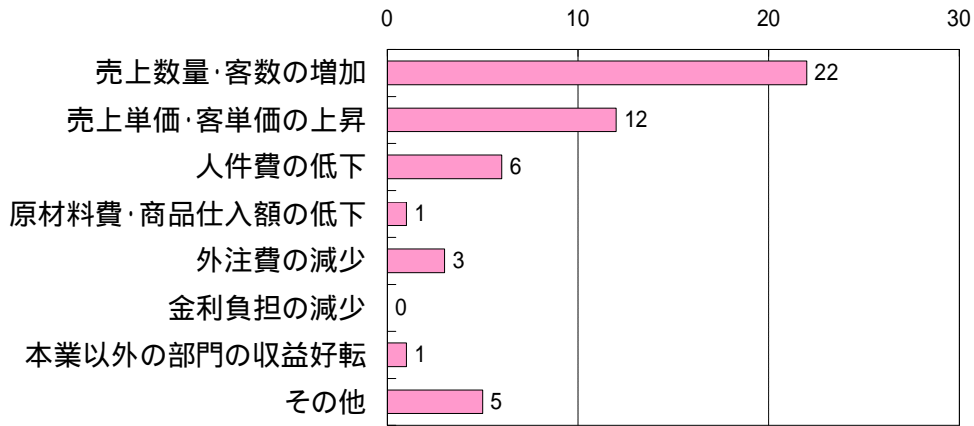






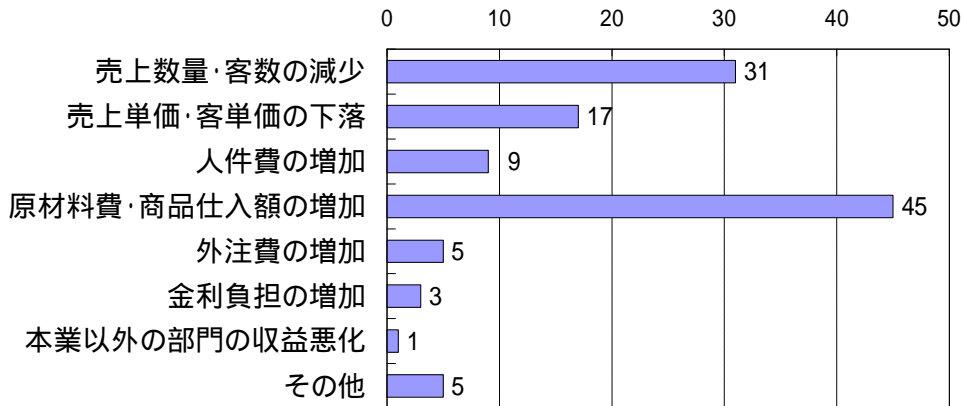
採算好転の理由

回答数



採算悪化の理由

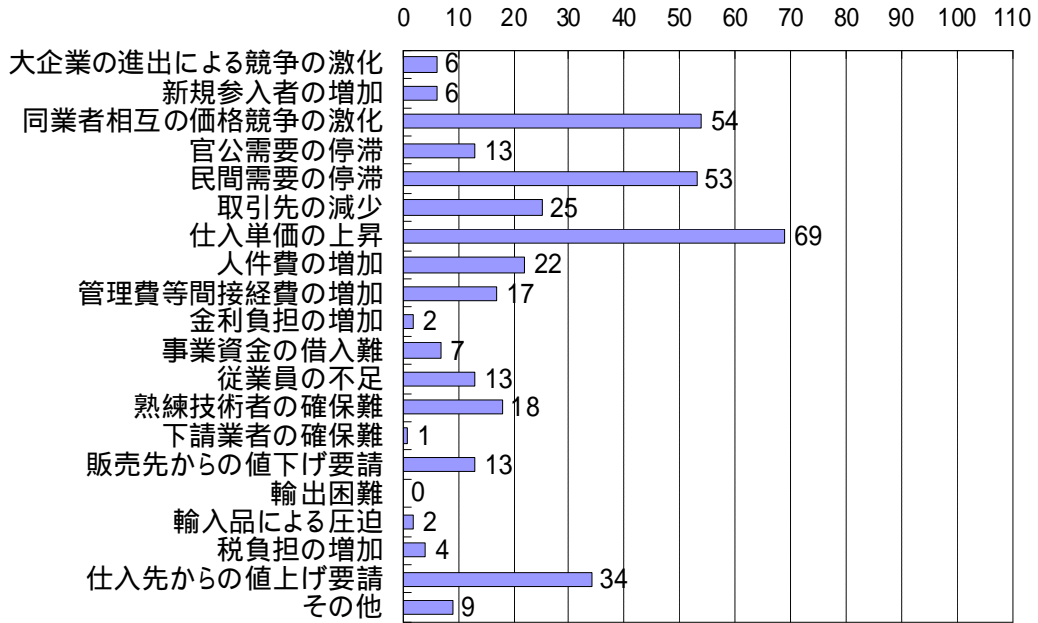
回答数



業種	売上高	売上高	売上高	採算	採算	採算	採算水準当期	自社業況判断	自社業況判断	自社業況判断	業界業況判断	業界業況判断	業界業況判断
	前期比	前年同期比	次期見通し	前期比	前年同期比	次期見通し		前期比	前年同期比	次期見通し	前期比	前年同期比	次期見通し
全業種	-5.3	1.9	2.0	-18.2	-16.6	-21.8	14.7	-22.6	-17.3	-18.7	-61.9	-66.2	-60.4
建設	15.38	0	-23.1	-7.69	0	-30.8	23.1	15.4	0	-7.7	-69.2	-69.2	-76.9
製造	-6.67	12.5	3.4	-23.3	-18.8	-27.6	9.7	-25	-15.6	-9.4	-53.1	-67.7	-59.4
流通商業	-13.8	-7.0	1.8	-19.6	-23.3	-20.8	11.7	-25.4	-18.6	-18.6	-64.4	-67.2	-63.8
サービス	0	5.8	8	-16.3	-11.5	-17	19.2	-27.5	-21.2	-27.5	-62.7	-63.5	-52.9

経営上の問題点(選択肢から上位3つ選択)

回答数



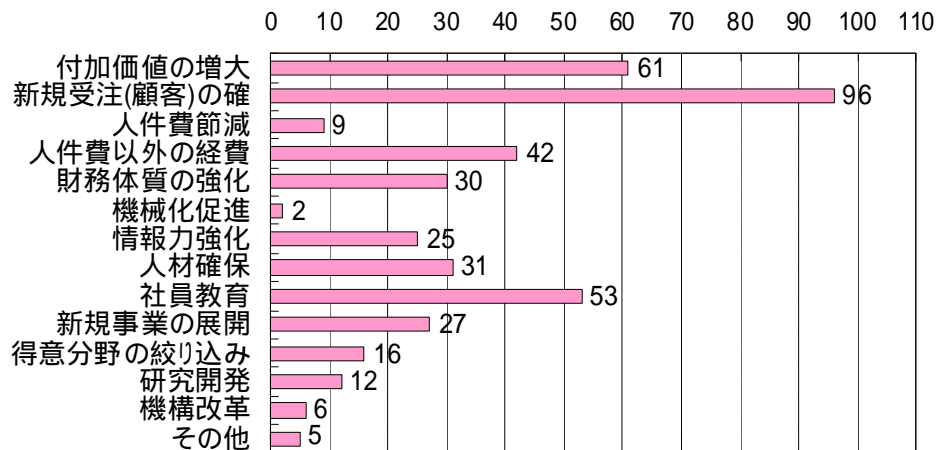
【その他(経営上の問題点)】

業務処理等、社内組織の改善
 新規加入の減少
 経営者本人の努力不足
 法定福利費の増加

社員の意欲の向上
 得意先の与信
 医療法改正

経営上の力点(選択肢から上位3つ選択)

回答数

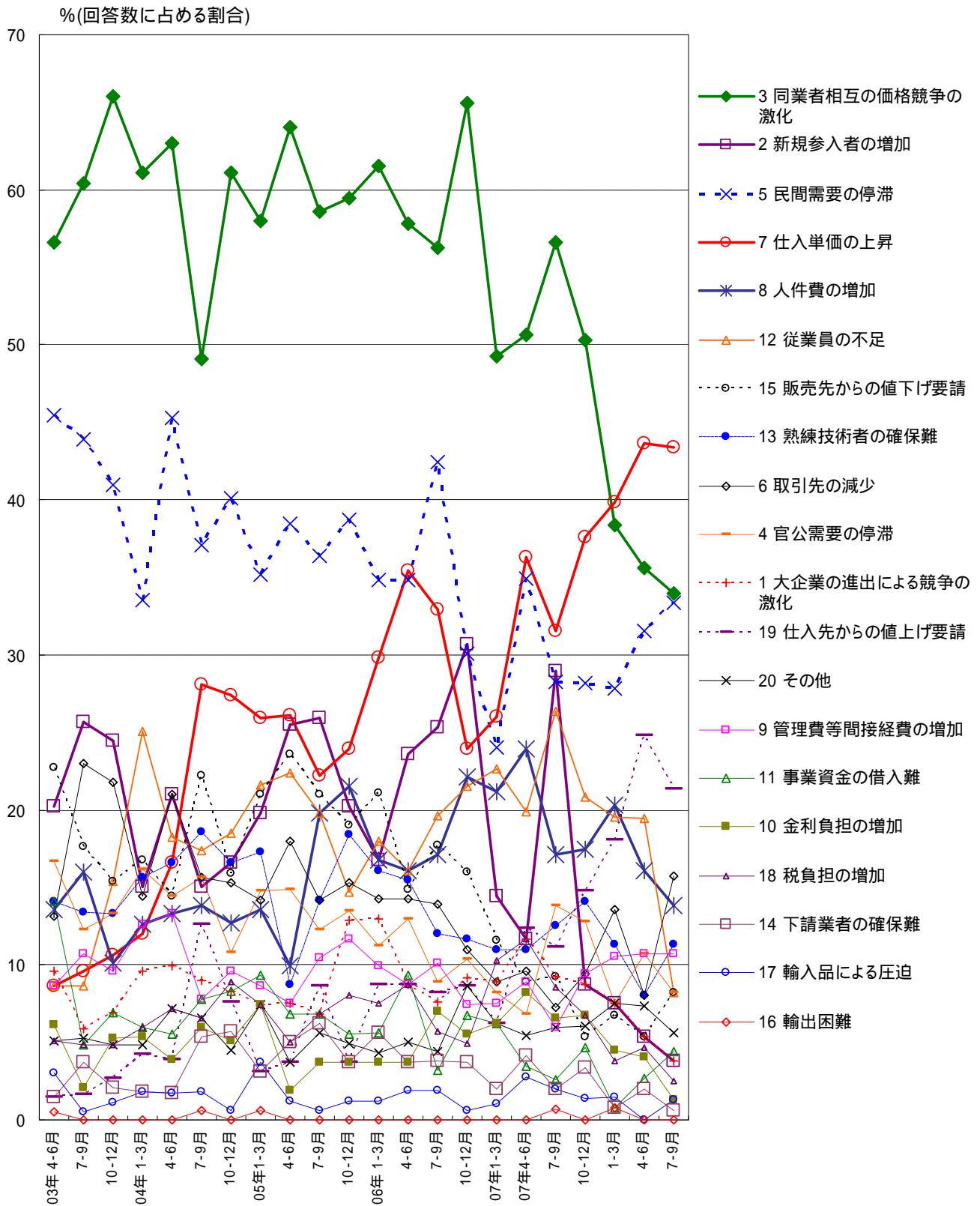


【その他(経営上の力点)】

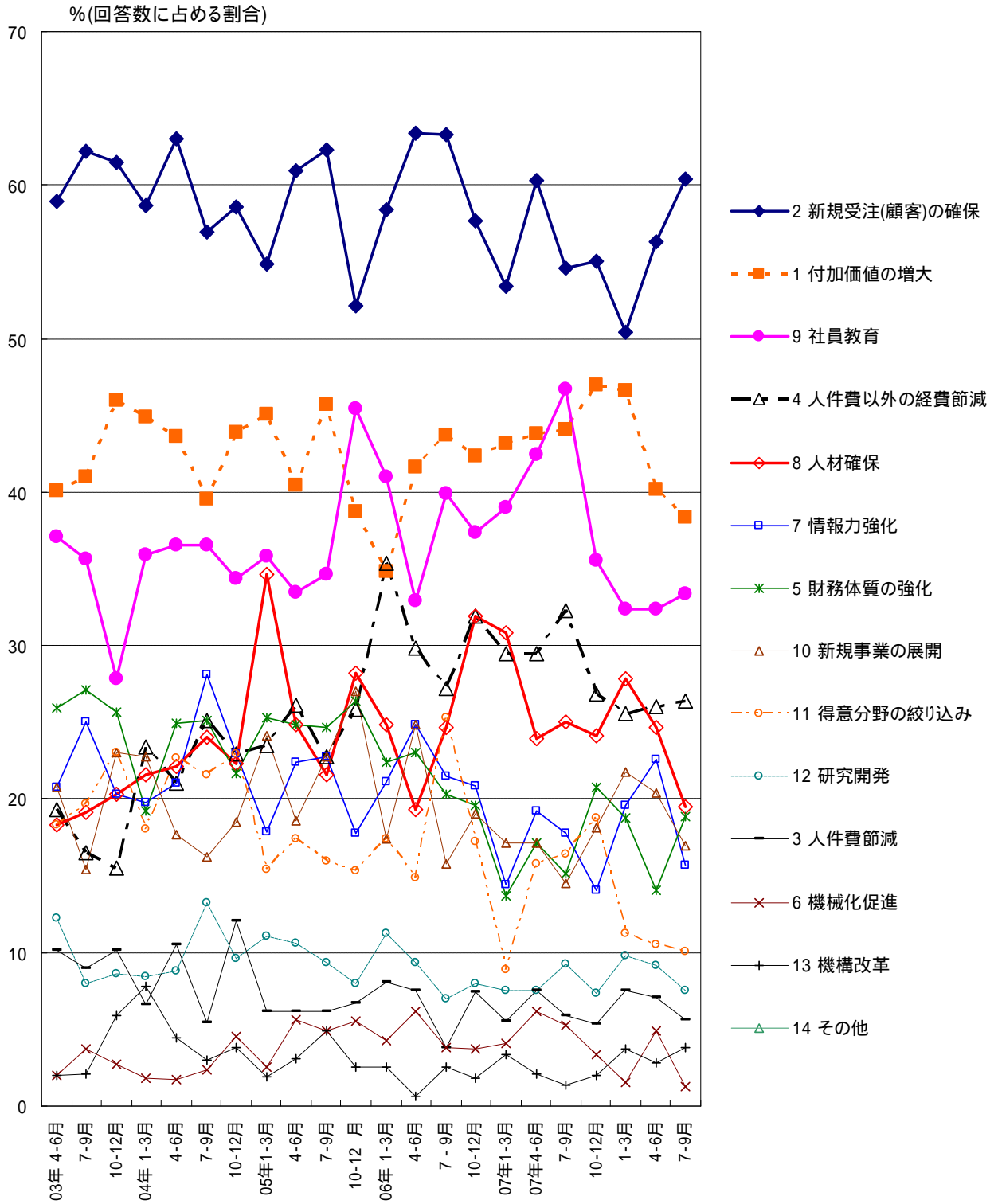
システム改廃(入替え)
 在庫の確保(売り逃しのないように)
 販売価格の値上げ交渉
 技術力の向上

競合他社との差別化を図っていく

今期における「経営上の問題点」の推移(2003年4-6月～2008年7-9月)

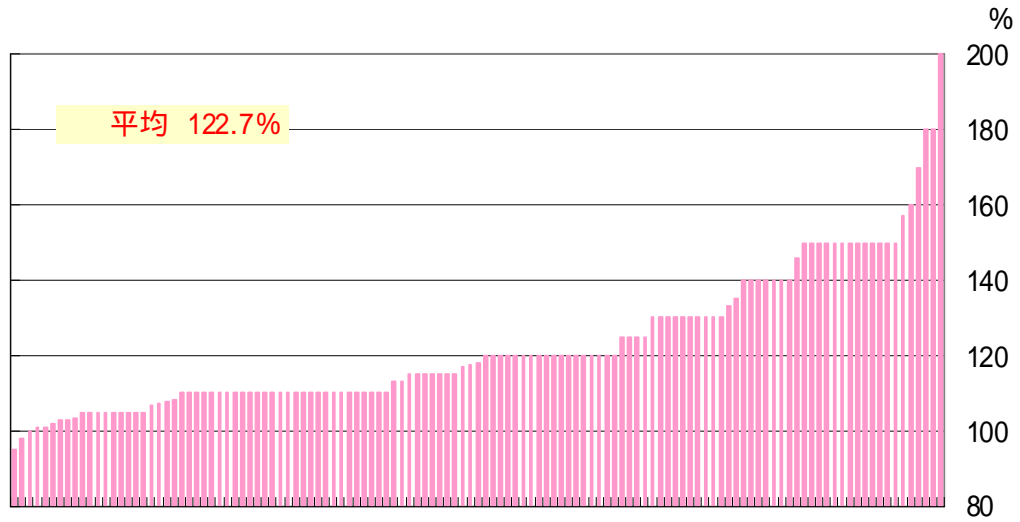


次期に考える「経営上の力点」の推移(2003年4-6月～2008年7-9月)

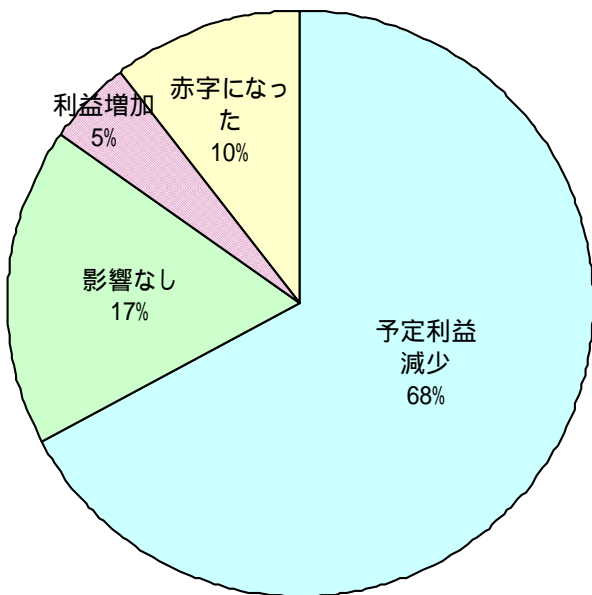


【特別調査】 『燃料・原材料・仕入れ価格上昇における 自社の対応』

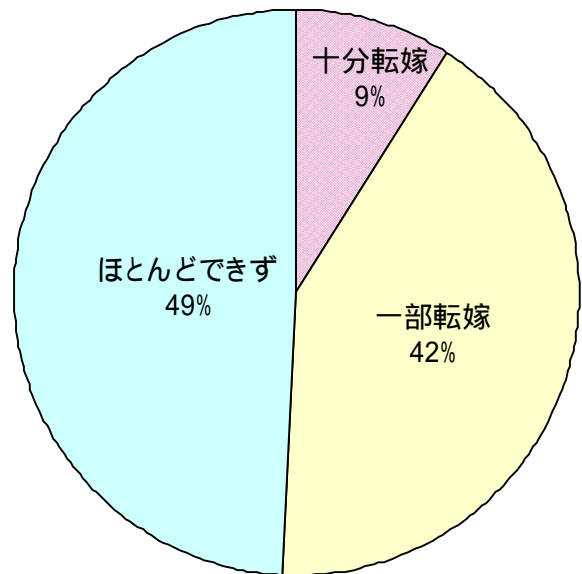
燃料・原材料・仕入れ価格の上昇程度



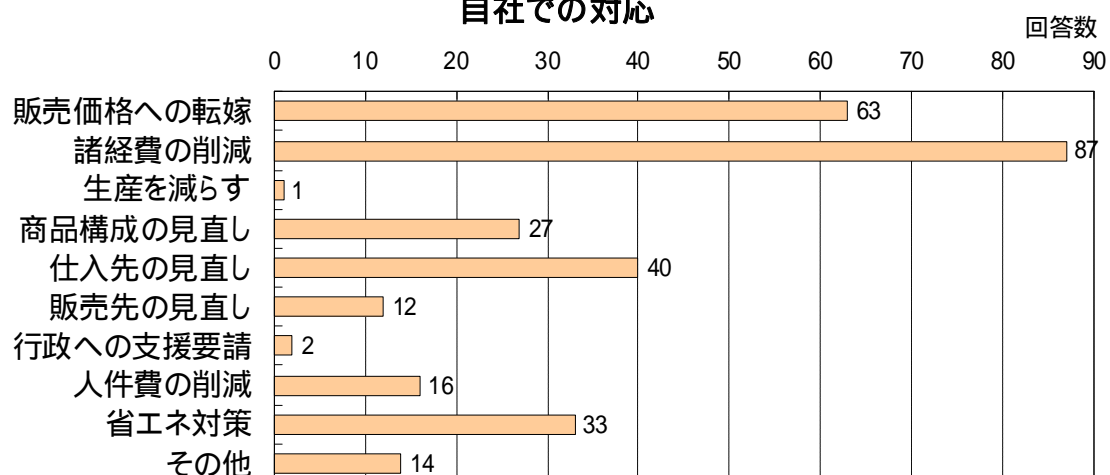
燃料・原材料・仕入れ価格の上昇における利益への影響



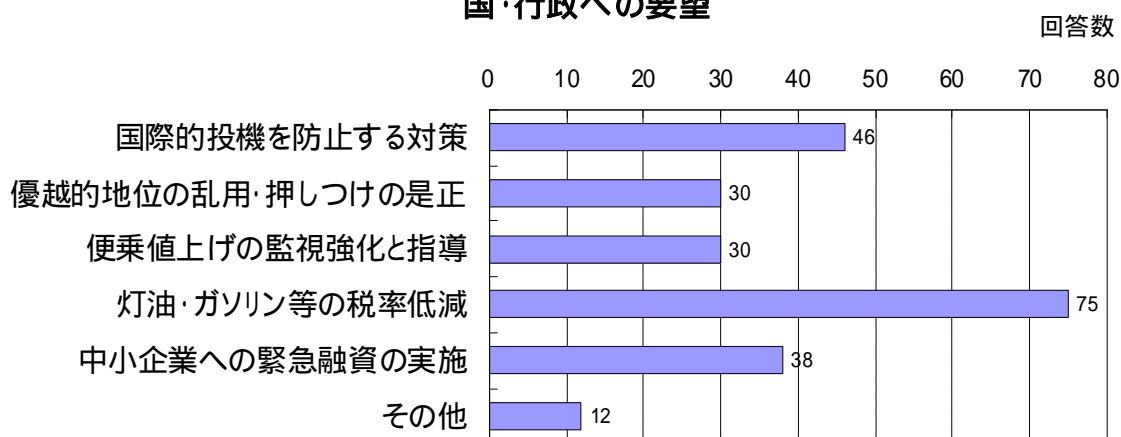
販売価格への転嫁



自社での対応



国・行政への要望



	売上高 前期比	売上高 前年同期比	売上高 次期見通し	採算 前期比	採算 前年同期比	採算 次期見通し	採算水準 当期	自社業況判断 前期比	自社業況判断 前年同期比	自社業況判断 次期見通し	業界業況判断 前期比	業界業況判断 前年同期比	業界業況判断 次期見通し
原材料・仕入れ単価の上昇程度平均未満	-11.8	-2.6	-3.9	-23.0	-18.8	-28.8	-26.3	-17.5	-21.3	-66.3	-69.6	-63.3	11.4
原材料・仕入れ単価の上昇程度平均以上	-2.4	9.8	2.5	-15.0	-7.1	-18.9	-14.6	-4.8	-14.6	-58.5	-61.0	-56.1	9.5
価格転嫁(十分、一部転嫁できた)	3.1	18.2	8.1	-3.2	0.0	-11.7	-13.4	-1.5	-10.4	-58.2	-65.7	-62.7	19.4
価格転嫁(ほとんど転嫁できず)	-21.9	-16.7	-3.1	-41.3	-38.8	-36.7	-34.8	-31.3	-27.3	-68.2	-69.7	-60.6	7.5